

はばたくなら ⑦

生きる力・思いやりの気持ちを育む保育 ～命を守る防災保育とは～

取組について

■近年、日本各地で地震・災害が発生し、いつ自分たちの身に起こってもおかしくない状況の中、保育の現場で子どもたちの命を守るための防災保育を早急に進めていく大切さを感じ、取り組んでいきたいと考えた。

■その中で、防災＝避難・備蓄品の確保等の話題が主になったり、未満児クラスではどのように防災保育に取り組んでいけば良いのか分からなかったり等、職員間でも防災に対する知識や考え方、捉え方の違いがあった。しかし、話し合いを深める中で、思いやりの心・助け合う気持ち・人とのつながり・自分の身を守ろうとする力が防災保育において大切ではないかという事に気付いたと同時に、避難・備蓄品のみならず、様々な視点からの気付きや課題が見えてきた。

■そこで、二上保育所では地域との繋がりが強いという事も踏まえ、4つのカテゴリーにスポットを当てて取り組みを進める事にした。

～人を思いやる気持ちを育てる～

～地域とのつながり～

〔災害時、避難する際には「相手を思う気持ちが命を守る」事に繋がるという気付きから・・・〕

〔普段から地域とのつながりが深く、地域とのつながりが強みだということもあり、防災保育にも繋げていけないかという思いから・・・〕

～職員の意識の変化～

～アレルギー児や特別支援児の対応～

〔それぞれの知識や考え方、捉え方から気付きや学びを大切にしていきたいという思いから・・・〕

〔アレルギー児と特別支援児にとって災害時に必要な事とは・・・〕

取組を通して

○所内で何度も話し合いを重ね、保育の中でできる防災とは何かを模索してきた。職員間で意見交流を行う機会を設ける事で様々な視点から防災を捉える事や、所内全体で子ども理解を深める事にもつながった。

○保育士自身が「防災」を意識する事で、普段の遊びや生活が防災につながるという事にも気付き、職員の意識が変わる事で子どもの姿にも少しずつ変化が見られるようになっている。

○職員間の中では、防災に関する知識や、日頃からの意識の持ち方には違いもあり課題もあるが、保育士自身が防災知識を高めると共に、遊びの中で育める防災保育を目指し、今後も継続して取り組んでいきたい。

<子どもの姿>

○4月当初、新しい環境や担任と過ごすことに不安から泣いたり、表情が固かったりする姿が見られた

<保育士の願い>

- 特定の保育士と愛着関係を築き、安心して過ごせるようになってほしい
- 一人一人の子どもと丁寧に関わり、たくさん触れ合う中で大切にされているということを感じてほしい

～触れ合い遊び～

私もしてほしいなあ

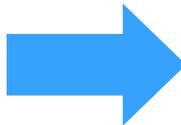
絵本をはじめるよ～の合図で集まってきたよ



きゃははは～楽しいなあ

日々の保育の取り組みから安心できる保育士のもとで一緒に遊んだり、触れ合ったりしてきたことで情緒が安定し、いざ何かが起こった時に保育士の声かけや合図で傍まで集まることができるのではないかと考え、子どもたちと関わってきた

しかし、特定の保育士との関係は築けたけれど…



担任がいない時は…？
災害時、他の先生や幼児クラスの友達に助けてもらうことがあるかも…

特定の保育士との関係を土台にさらに様々な人との関わり
の輪を広げていけるような取り組みが課題であることが見えてきた

職員との関わり



4月から給食をもってきてくれたり、名前を呼んで声を掛けてくれたりする

給食もってきたよ～

他クラスとの関わり



そこで…

先生、読んで～

5歳児が夕方遊びにきてくれる

できたね～

子どもの成長を共感してもらえ、成長している姿を伝えてもらえて担任一人のみでみているだけでは気付かないことも知れるきっかけになる

<成果>

いざ何かが起こった時に、特定の保育士以外にも安心して関わりができるよう日々の生活の中で様々な職員が関わることを意識してきた。

結果、クラスにたくさんの職員が顔を出してくれる機会が増えたことで、どの子も表情が柔らかくなり、安心して一緒に遊ぶ姿へとつながっている。

<課題>

今後も他クラスや様々な職員と関わったり、遊んだりできる場を設け、特定の保育士以外との関わりを大切にしていきたい。

また、その時々の子どもたちの姿や発達に応じてつながりや関わりを大切に出来る方法を自らも発信し、取り組みを継続していきたいと思う。

<子どもの姿>

○地震の避難訓練時、部屋の中央に集まって体を守るため上から布団をかぶせたが慣れないシチュエーションに不安になり中から出てきたり、泣いたりする子どもの姿が見られた

<保育士の願い>

○地震発生時の身の守り方を知ってほしい
○保育士の話を聞いて、一緒に避難してほしい

色々な素材に触れたり、慣れたりすることも大切なのでは？

遊びの中で防災保育につなげられることはないかな？

新聞紙で遊ぼう

暗くなった

安心感・信頼感が
必要だなあ

～合図で集まろう～
オーガンジーの下に集まったり、隠れたりして遊んでみよう

みんな
おいで、おいで～



生活や遊びの中で、
自分の身の守り方を知って
いけるようにするにはどうしたら
いいかな？

そ～れ



頭にのせて～
帽子

～落下物どうする？～
頭の上に座布団を乗せて
遊んでみよう

頭の上にかぶせることに慣れてく
れるといいなあ

楽しいね！
もっともっと！



かくれた
かくれた



いないいない
ばあ

遊びを通して色々な経験を
つんでいってほしいなあ

<成果>

20名中、14名が新入所児ということで初めての集団生活に戸惑ったり、不安になったりしていたが、色々な遊びを知り、経験する中で慣れたり親しみをもったりしてきている。防災に関わる遊びを通して、災害に備えることの重要さや、一見関係のないように見える普段の遊びも災害対策につながっていることに気付いた。

<課題>

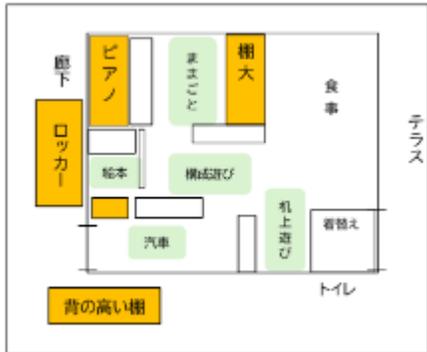
災害はいつ起こるか分からないので、生活や遊びの中で経験をたくさん積み、自ら行動できるように日頃から準備しておくことが大切だと感じる。又、災害時の態度や意欲につなげるためにはどうしたらいいのか考えることも大切である。子どもたちが楽しみながら防災の力を身に付けていける保育を保育士がいかに意識しながら取り入れていけるかが課題である。

<子どもの姿>

○新規7名・継続17名、合計24名でスタートする。支援児を数名含む個性豊かなクラスで、新年度は落ち着かずひっかきや噛みつきが頻繁におき目が離せない状態であった

<保育士の願い>

- 一人一人が安心して生活し、保育士や友達と一緒に好きな遊びを見つけて遊んでほしい
- 地震等の災害に備えて安全な空間を確保し、のびのびと過ごしてほしい



- ピアノの前は転倒の危険があるので布団を敷くことができない。また、遊ぶ時も棚を置き距離をおいている
- 大きな棚で食事コーナーとのスペースを分けているが転倒の可能性はある
- 子どもたちが落ち着くようにほっとするスペースや、好きな遊びを取り入れたコーナーを作りたい



- ピアノを保育室から撤去する
- ロッカーは廊下に出していたが、廊下で転倒した場合、避難通路を防ぐ可能性があるため保育室に入れる
- 保育室内のロッカー及び大きな棚は壁につけて配置し、転倒予防のため前を上げておく



ロッカーを壁につけたことで広いスペースが出来、背の高い棚の前に布団を敷くことはなくなった。

身支度を自分ですることが増えてきたので、ロッカーを見通しよく配置することで子どもたちの動線がよくなった。

配置換えをすることで見えてきた課題

○壁の大部分をロッカーが占め、スペースを分ける役割を担っていた大きな棚を壁につけたことでコーナーが作りづらくなる



転倒の危険のないものでコーナーを仕切り、落ち着けるスペースを作ると遊びに集中する姿が見られた。



<成果>

子どもたちの発達や興味、動線を考えて環境作りをしていたが、そこに「防災」の視点を入れたことにより、保育士の気づきが増えてきた。一度環境を整えると次々と気になる箇所が出てきて、その都度担任間で話し合い、他クラスの保育士に意見をもらいながら更に変化させることができた。

<課題>

命を守る防災視点での環境構成と、発達を保障するあそびの充実における環境構成の両者を共存していくことは時に反することもあり難しさを感じた。防災対策を学び知識を得ながら今ある環境の中で工夫し知恵をしぼっていきたい。

<子どもの姿>

○新しい環境にも少しずつ慣れ、自分なりに安心できる場を見つけ過ごせるようになると、友達との関わりも広がってきた。その中で、自分の思いばかりを通そうとしたり、友だちの姿や思いにあまり関心がなかったりする場面が目立つようになってきた

<保育士の願い>

○集団生活の中で、人と関わる心地よさを感じながら友達との関わりを深めてほしい
○認めてもらったり、してもらったりする経験を重ねていく事で心の安定を図り、思いやりの気持ちを育ててほしい

心の安定が大切なのでは？



心地よさを感じる関わりとは？



やってもらった経験が自分もしてあげようにつながっていく？

やったー！みんなで片付けよう

先生と一緒にやってみよう！

先生お手伝いマンきたよ

「お手伝いマン」と名前をつけ、まずはやってもらって嬉しかった経験を重ね人との関わりに満足感を感じられるように関わった

○子どもの姿に対して表情や言葉で気持ちを伝え、喜んでくれて嬉しい！またやってみよう！につなげる
○子ども理解に努め、継続した関わりを行う

○自分もやってあげよう！に、どのようにつなげていくか
○気持ちの発達には個人差が大きい

防災につながるあそび

お手伝いマンきたよ！

お手伝いありがとう

お手伝いに来てくれて嬉しいね！



4月



自分の場所を確保すると、友達を気にかけて声を掛ける姿が見られるようになった

保育士の合図でフープの中に入ろう！（安全な場所に避難・待機）

こっちにおいでー！

8月



友達との関わりが深まり、子ども同士で助け合う姿が少しずつでてきた

<成果>

してもらって嬉しかった、心地よかったという経験を重ねていく事で満足感を感じ、自分も誰かにやってあげようという姿に少しずつ繋がってきている。保育士が手本となる姿を見せながら関わっていく事で自然と優しい言葉がクラスの中で聞こえるようになり、温かいクラスの雰囲気が出てきている。

<課題>

気持ちを言葉で表現する事は難しい場面も多くトラブルもあるが、保育士が互いをつなぐ役割を担い、友達同士の関わりを深めていけるようにしていきたい。又、満たされた環境で心の安定を図る事が、今後思いやりの気持ちを育む事につながっていくと考え、所内全体で継続的な関わりを行なっていきたい。

<子どもの姿>

- 友達と一緒に遊びや活動を進めることを楽しむ中で、友達との行動や考えの違いに気づき、互いに指摘し合ったり、違いを気にして自己表現に自信がもてなかったりする
- 体を動かして遊ぶ事が好きだが、こけやすかったり姿勢保持が難しかったりする子どもが多い

<保育士の願い>

- 友達の気持ちを想像しながら、受け入れたり受け入れてもらったりする安心感や満足感を味わうことで、思いやりの気持ちの土台となる共感力を育みたい
- 体幹遊びを通して、すばやく安全に避難するために必要な体づくりを目指す

<毎日のサークルタイム>

友達と思いを出し合いながら、互いのことを知ったりクラスで1つのことを一緒に考えたりしている。

絵本「できるかな」
表現遊び

集団の場での表現が苦手……。普段の遊びの中で考えたポーズをパネルにすることで安心できた

鉄棒で前回りができて嬉しかったよ!!

こんなポーズを考えたいよみんなできる?



〇〇くんみたいにやってみよう

自分が考えたことを友達と一緒にできると嬉しい!! 自信に繋がった

すごいね!

大根抜きゲーム

言葉で思いを伝えたり、順番を待ったりすることが難しいA児。「1番は先生大根を抜こう」と子どもたちでルールを決めたタイミングでマットの上に……。A児のやりたい思いを受け止め、クラス全員が「がんばれー!!」と応援していた。

大丈夫!! 安心できる雰囲気づくり

ごめんね。体操間違っちゃった

僕と一緒にや!



先生も間違えるんや!

Aくんやる気満々

ゴムゴムくもの巣

ぐる

とぶ

またぐ

Aくん恐竜博士やから強いぞ

地震の激しい揺れや何度も起こる余震。踏ん張ったり、しっかりと握ったりする力も身を守ることに繋がる

みてみて!! こんなことできるよ すごいでしょ



変化するゴムの形をよく見て、全身を使っていた。避難に必要な力

<成果>

安心できる環境の中で自己表現できた満足感が、の気持ちを知りたいという思いに繋がった。身体遊びを通して、自分の考えを「いいね」と友達に認めてもらったことが自信や喜びとなり、相手の事を気かけたり、思いを受け入れて一緒に考えたりするようになってきている。

<課題>

自分の気持ちを我慢して、友達に譲ったり合わせすぎたりする姿もある。相手の気持ちを受け入れることばかりが良いのではなく、しっかりと自分のやりたいことを表現しながら、自分も相手も大切だと感じられるようになってほしい。今後も全身を使った体幹遊びを楽しみながら継続していく。

<子どもの姿>

○4月、ひまわり組がスタート。ひとつ大きくなった事に喜びを感じながらお手伝いをしたり、前のひまわり組さんがやっていた事を真似ようとしたり・・・
その反面、まだまだ自分の事で精一杯で、友達と遊びを進めていく中でも自分の思いばかりを優先してしまいトラブルになるという姿もあった

<保育士の願い>

○意欲的な姿を認め、自信に繋げたい
○誰かの役に立っているという喜びを感じ、自尊感情を養っていききたい
○相手の事を考え、思いやりの気持ちを育んでいきたい
また、この事が防災・安全への取り組みの架け橋になってほしい

～おてつだいをしよう！～

4月頃、毎日の中でみんなが気付いた事を出し合い、お当番活動がスタート。その中の一つとして『3歳児ばら組さんへのお手伝い』が出た。それから、給食後の着替え、寝かしつけ、お昼寝起きのお手伝いなど出来る事から始める事になった。

お昼寝の準備・寝かしつけ

お手伝いをする中で感じた事を、毎日のサークルタイムの中で話しています



とんとんしてあげる

ここに手をいれよ!

お世話をしてありがとうって言ってもらった事が嬉しかった

「私もやって、私もやって」って自分の取り合いが始まって困った・・・

そしてありがとうのきができました

お手伝いを繰り返しながら、子どもたちなりに嬉しかった事、反対に困った事などを話す姿が見られた。

友達が泣いている姿を見て、背中をさすってあげたよ・・・

そこで

思いやりの気持ちとは実際にどういう事なのか子どもたち自身に気付いて欲しいと願い、ひまわり組で「ありがとう集めをしよう」という事になった。

ケガをしている友達の事を思って手を貸してあげたよ・・・

<成果>

この取り組みから、ありがとう（思いやり・感謝）に繋がる事を子どもたちなりに考える姿が見られるようになってきた。また、日常の中で今まで何気ない出来事だった事に感謝する気持ちの芽生えにも繋がっているように思う。当たり前前の事が、当たり前ではなく、周囲に助けをもらったり、気にかけてもらったりする事で思いやりの気持ちが育まると改めて感じた。

<課題>

この取り組みから思いやりの気持ちに気付くきっかけには繋がったが、まだまだ自分本位な場面も見られる為、『ありがとうのき』だけではなく、いろいろな場面から思いやりの気持ちを育む事ができるよう工夫やアプローチをしていきたい。また、保育の中から防災保育のあり方についても考えていきたいと思う。

～異年齢との関わり～

災害時、子どもたちを守る為には・・・？

クラスだけでは不可能、保育所全体で子どもたちを守る

他クラスの保育士や子ども同士の関わりを深める

異年齢児交流計画

手をつないでお散歩うれしいな！！



一緒に過ごす安心感や頼られる嬉しさを感じている姿がある。相手のことを知りたいという思いが芽生え、子どもたちの関わりは深まってきているが・・・

〇〇ちゃん体操教えてあげるね



担任不在時に起きるかもしれない災害

- ・一人一人のことをどこまで理解できている？
- ・クラス以外の保育士も安心できる存在？
- ・必要な特別支援・配慮が誰でもできる？

ありがとう

新たな課題がうまれる

そんな時・・・

ブレイクダンスが得意な3歳児クラス担任の姿に憧れを抱き、ダンスに興味が高まっていた子どもたち。「一緒にやりたい」の子どもの声をきっかけに、数人の5歳児が3歳児の保育室で一緒に遊ぶようになった。

他クラスの子どもたちと保育士と一緒にじっくりと遊び込むことで、今まで気付かなかった子どもの姿がみえた

一人一人が落ち着ける場を選ぶことで、好きな遊びを通して友達や保育士との関わりが深まり、安心できる存在が増えているな

3歳児保育室〈ダンスコーナー〉

お兄ちゃんたちみたいに・・・やってみよう！



先生かっこいい！！先生みたいになりたい



ダンスバトル対決！

周りの子どもたちも、他クラスの遊びに興味をもつ

夕方長時間保育前 毎日幼児3クラス開放
好きな遊び・人・場所を子どもが選べる環境

保育士も自然と他クラスに移動

クラスの垣根をこえた保育士の連携に繋がった

4歳児保育室・5歳児保育室
〈製作コーナー・ままごと・ブロックなど〉



ティッシュ箱でギターを作ろう

乳アレルギー（アナフィラキシー有り・エピペン保持）の子どもが在籍している。クラス以外の場所であそぶことで、担任以外から「この素材使って大丈夫？」「他児と同じ水道で手洗いして良い？」など、具体的な質問が出るが増え、大きな意識の変化となった。

全職員が必ず正しい判断・対応ができるように

全職員が必ず正しい判断・対応ができるように



緊急時の応急処置は？

- ・エピペン使用方法の講習
- ・緊急薬とエピペンを誰が持参して避難するかを確認
- ・保護者と連絡が取れない場合を想定し、対応を事前相談

避難スペースは大丈夫？

- ・所内研修をする時間を作り、クラスで日常から徹底している除去対策を、ビデオや写真活用しながら具体的に啓発する

どの支援物資を食べてOK？

- ・保護者と共にNG成分表示リストを作成。避難リュックや備蓄品箱など数カ所に入れ必ず確認してから提供する

〈個々の姿に応じた特別支援〉

A児

- ・全体指示の理解が難しい
- ・いつもと違う状況ではパニックになる
- ・絵本や恐竜が好き
- ・安心できる特定の保育士がいる

- ・発生直後パニックになると予想。すぐに手を繋いだり抱いたり、個別に避難誘導が必要
- ・避難後安心して過ごせるようにシート（居場所）や好きな玩具を避難バッグに入れておく
- ・普段から加配保育士以外との関係を深めて、安心できる存在を増やしておく

B児



- ・初めての事や場所が苦手
- ・自分のルール、思い込みが強い
- ・じっくり観察し行動に移す事で出来る事が増える

- ・様々なパターンを想定し、繰り返し訓練する事で色々な状況に少しでも対応できるようにする
- ・普段の保育の中で、色々な部屋に行ったり好きな友達や保育士が周りいたりする安心感をもてるようにする

C児

- ・身体的支援を要する
- ・普段は保育士が補助しながら本児のペースで歩行
- ・Bigサイズのオムツを使用
- ・危険認知が難しい
- ・物を口に入れる

- ・抱っこして個別に避難するその後の場所移動を想定して普段から園庭倉庫にベビーカーを準備しておく
- ・避難バッグや備蓄品に本児サイズのオムツを準備
- ・どんな状況でも保育士が傍で様子を見守り、安全確保

～地域とのつながり～

<6月5日 保育所、幼稚園、小学校との合同避難訓練>
地震発生のお知らせを受け、安全確保を行なった上で小学校へ避難する



最後に、校長先生から、地震が発生してからおよそ12分で無事に避難できたことや、実際に災害が起きた時に助け合うことの大切さなどの話を聞く。

入口付近で6年生が待機し、保育所の子どもたちを迎えた後、手を繋いで運動場まで誘導してくれる。

未満児たちも幼稚園、小学校の先生たちの協力の下、安全確保をしながら避難する。

こどもの姿

初めての合同訓練でいつもと違う環境の中、泣いたり不安になったりしている子どもおらず、落ち着いて行動する姿があった。

保育士の願い

実際に訓練を行った中での気づきを元に、今後も防災の取り組みや地域での活動を有意義なものにしていく為に子どもたち同士のつながりも深めていきたいと感じた。

○その後、部屋に戻り避難訓練についての話しをする

～4歳児すみれ組・5歳児ひまわり組の子どもたちから～

- ・どうしてみんな同じ絵本を持っていたのかな？
- ・お兄ちゃん、お姉ちゃんに手を繋いでもらって嬉しかった
- ・優しくしてもらえたことが嬉しかった・・・

避難をする際、頭を守る為に使っていた教科書を見て、何だろう？と思った4歳児。6年生にしてもらった事に対する思いをもった5歳児それぞれの姿があった。

○みんなの思いを伝える為に・・・

～6年生に手紙を書こう！～

どういたしまして

避難訓練の時は優しくしてくれてありがとう！

この頃、字に興味を持ち始めていた5歳児。遊びの中でも手紙ごっこをしていました。その経験とも重なり、5歳児が主に手紙を書き、4歳児は絵を描いて手紙を完成させた。

○後日、6年生からの返事をもらいました。すると、「もう一回手紙を書こう！」という意見が・・・

そこで・・・

小学校就学に向け、5年生との繋がりも深めていきたい。知っている、お兄ちゃん、お姉ちゃんがいる事で安心して就学を迎えられるかもしれないと考え、今度は、5年生に向けて手紙を書く事になった。

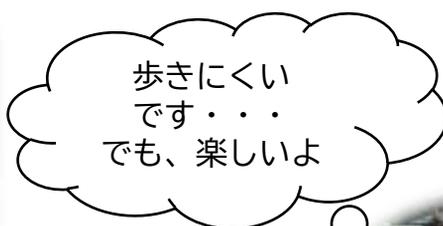




その後、5年生に手紙を届ける事ができ、小学校に招待してもらえる事に・・・小学校では、就学に向けて不安な事であった「傘を忘れたらどうしますか?」「給食はありますか?」「お茶はありますか?」など質問に答えてもらったり、校内を見せてもらったりなど、5歳児にとっては安心して就学を迎える為の経験の一つになったように思う。

<6月17日 田植えをしたよ!>

○地域の方との繋がりで田植えの経験をさせてもらった5歳児ひまわり組の子どもたち。地域の方に植え方を教えてもらったり、小学校のお兄ちゃん、お姉ちゃんが田植えをしている所を見せてもらったりした。そして、初めての経験にわくわくし、泥んこになりながら楽しむ姿があった。



菜園活動やその他、保育所の様々な事にいつもご尽力をいただいている地域の方に田植えの仕方を教えてもらい、みんなで作ってみる事に・・・。



教えてもらった通りに一生懸命、稲を植えていた子どもたち。稲が倒れてしまう事もあり、どうしたら上手くできるかな?と考えたり、上手く出来る方法を友達と相談したりしながら取り組む姿があった。

考察

普段から地域とのつながりを大切にし、長年築きあげてきた関係があったからこそ、今回の合同避難訓練に繋がったように思う。また、ただ繋がるだけではなく、今、子どもたちにとって何が必要なのか、そして子どもたちの姿から今、必要な事に対して何が出来るのか、繋がりがあるからこそ出来る事は何か等を考えた事で今回の経験に繋がったのではないかと考える。

今後は、1回目の合同避難訓練の反省を踏まえ、2回目も予定している。これからも子どもたちの姿からは勿論、視野を広げた保育内容や、繋がりがあるからこそそのアプローチを大切に地域との繋がりを深めていきたい。

～職員の意識の変化～



現役の消防士による
子どもの安全や命を
守るための講座

防災保育について考え、会議を重ねていく中で、まず、職員一人一人の考え方や捉え方の違いに気づく事が出来た。また、避難訓練や室内環境はもちろん、保育の中にどう取り入れていくかなど『カタチ』だけではなく考え方や捉え方についても、その都度話し合う事で『防災保育』が特別なものではなく、普段の保育からもどう繋がっているのかや、いざ災害が起きたときの職員の対応やスキルの向上が必要であることを職員全体で意識出来るように変化していった。

職員 研修

防災士による能登半
島地震からの学びや
防災保育についての
講座



職員室では

いざという時、職員室は情報整理や様々な指示を発信する場となることを想定し、それらの業務が進めやすい環境になっているか、災害で室内のものが倒れ散乱してもすぐに復旧できる配置になっているのかなどを考え、見直しを行なった。



高い本棚や倒れる危険のあるものを壁につけ固定し倒れにくくしたり、パーテーションを布製からホワイトボードにし、書き込んだり掲示できるようにした。

パソコンを1箇所を集め、中央のテーブルをフラットにしたことで、職員がちょっと座って保育や子どもたちの話しをする機会が増えてきた。また、防災を想定した時、フラットになっていることで、資料を広げての情報収集や作業なども進めやすくなるのではと考える。

～保護者への啓発～

過去の災害時にどういったことがあったのか、いざという時に慌てずに行動できるように、また保育所で行なっている保育が子どもたちの防災にどうつながっているのかなど、保護者にも理解してもらえるように参観時に話す機会をつくった。また、送迎時に自分の住んでいるところや保育所までの経路で危険なところを知ってもらえるように、防災マップを掲示している。



指が上手く動かない

子どもはこんな感覚で折り紙してるのが

もっと子どもに優しくしてあげよう



足元あんまり見えない。こわいね～

軍手をはめて幼児の手の感覚で折り紙を折ってみよう

チャイルドビジョン（つけると幼児の視覚になる）を使って、階段を下りてみよう



実際に自宅の周辺などを確認して、保護者同士で「ここ通ったらあかん」「家の近くに土砂警戒区域がある」「避難場所がここになっている」など話す姿も見られ意識されるようになってきた。

まとめ



(成果)

- 異年齢児活動では、普段から交流を深めていく事で、他クラスの保育士や友だちとの関わりが深まり、安心できる場が広がった。子ども達が色々なクラスを行き交う事で保育士も他クラスとの連携が自然と深まり、何気ない子どもの姿を話したり、特別支援や配慮の必要な子どもへの関わり方も共通認識したりできるきっかけとなった。又、避難訓練では5歳児が3歳児を気に掛け、防災頭巾を先に譲ってあげたり、安心できるよう手を繋いであげたりする姿が見られるようになり、思いやりの心も共に育まれてきている。
- 災害時には、保護者との連携も大切であるという観点から、保育所での取り組みを知ってもらう機会を設けた。その中で、チャイルドビジョン(大人が幼児の視界を体験する事ができるメガネ)の体験をきっかけに、送迎時、階段の上り下りの際に危険のないよう声を掛ける保護者の姿もあり、防災意識を高めると共に子どもの発達をより理解してもらう事にもつながった。
- 地域とのつながりは、これまでのつながりを大切にしながらより密に連携をとり、いざという時に互いに助け合える関係作りができています。又、合同避難訓練をきっかけに子ども同士のつながりにも発展した。

(課題)

- いつ何時起こるか分からない災害に備えて準備しておくだけでなく、どんな事態にも対応できるようにあらゆるシチュエーションを想定しておいたり、その都度、出てきた疑問や課題を解決できるように話し合ったりしていかなければならない。また、そのためには職員間で日頃から問題意識や当事者意識をもち、同じ思いで取り組んでいけるようにしたい。
- 職員の意識の変化から、防災保育とは特別なものではなく、日頃の生活や遊びにつながっていることが分かったが、いかに意識して保育の中に取り入れていくかが課題である。

